

2019年度事業報告書

2019年4月1日～2020年3月31日

公益財団法人 全国青少年教化協議会

事業報告目次

I 教化事業（公益目的事業1）

- 1 青少年健全育成推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 1 ～ P. 4
- 2 公益活動推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 4 ～ P. 7
- 3 臨床仏教研究所運営事業・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 7 ～ P. 11
- 4 出版事業・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 11～P. 12

II 表彰事業（公益目的事業2）・・・・・・・・ P. 12～P. 13

III 災害支援事業（公益目的事業3）・・・・・・・・ P. 13

IV 管理・・・・・・・・ P. 13

事業報告付属明細書・・・・・・・・ P. 14

2019年度事業報告

(2019年4月1日～2020年3月31日)

I 教化事業（公益目的事業1）

仏教精神に基づき青少幼年をはじめとするすべての人々の心身と人格の健全な向上を図る事業

1 青少年健全育成推進事業

(1) 仏教子ども会活動の推進事業

①花まつり行事の推進、助成

加盟教団及び府県地区青少年教化協議会（略称・青少協）に対して、花まつり行事の推進を図った。

②成道会全国こども大会の開催推進

2019年12月8日前後の日曜日を中心に全国約45会場で開催した。

※参加者＝約9,000名（うち児童約5,000名）

※行事＝記念式典（法要・法話等）、お楽しみ会（童話、ゲーム、映画、パネルシアター、紙芝居、人形劇）等多彩な行事が各地で開催された。

※教材助成＝成道会用リーフレット（B6判、多色刷り）、成道会ポスター（A2判、多色刷り）、シャープペンシル（読売新聞社、日本テレビ放送網株式会社からの助成品）を送付、各開催会場の責任者から参加児童に手渡された。

※後援＝読売新聞社、日本テレビ放送網株式会社

③「コミュニケーション・スキルアップ」小冊子の配布

子どもたちのコミュニケーションを円滑に進めいじめや自死等の防止に資するため「コミュニケーション・スキルアップ」冊子を要請に応じて必要部数配布した。

(2) 青少年教化研修会等の開催事業

①2019年度指導者研修会「家族の問題と関わり方（複雑性PTSDを中心に）」

※日時＝2020年1月20日（月）

※会場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※講師＝田中 剛（カウンセリングルームベア・精神保健福祉士・公認心理師）

※目的＝虐待を受けた子どもたちは深い心の傷（トラウマ）を抱え、「複雑性PTSD」を発症するケースが多くみられる。「PTSD」と「複雑性PTSD」の違いを踏まえながら、支援する立場としての子どもたちや家族のSOSの受け止め方と適切なケア方法について、講義とワークショップを通じて学んだ。

②地域社会の安全安心を考えるフォーラムin川崎（つながり社会の回復へ向けて）

※日時＝2019年11月16日（土）

※会場＝（神奈川県川崎市）多摩市民会館

※パネリスト＝森田 博志（多摩区役所 高齢・障害課課長）

高森 康広（多摩区地域教育会議・議長）

木村 徹 (多摩区PTA協議会会長)

※コーディネーター＝神 仁 (当会常任理事)

※主催＝「地域社会の安全安心を考えるフォーラムin川崎」実行委員会

(多摩区PTA協議会・株式会社よみうりランド・公益財団法人全国青少年教化協議会)

※後援＝川崎市PTA連絡協議会・川崎市教育委員会

※目的＝川崎市登戸で発生した無差別殺傷事件を振り返り、就職氷河期世代を中心とするひきこもりの問題に対する現状を知り支援のあり方を考えるとともに、地域社会の中で安心安全を担保し子どもはじめすべての人びとが健やかに生きることのできるつながり社会の再構築へ向けて議論を進めた。

(3) 青少幼年支援ネットワーク拡充事業

① 青少幼年教化活動の調査・情報収集及び発信とNPO、公益法人等との活動連携

1) 青少幼年教化活動者の活動内容の調査、情報収集

日曜学校等、青少年教化活動を行っている寺院の活動状況について聞き取り調査をした。

2) 青少幼年を対象にした活動及び研究に関する情報収集

青少幼年問題に関する情報を広く収集するとともに、他団体が主催する青少幼年関係の研修会等にも参加し、その活動内容を把握した。又、加盟教団等の不登校・ひきこもり関連団体に関する情報収集を行った。

3) 仏教団体、仏教系大学サークルの情報収集と活動の連携

青少幼年に関する活動を行っている仏教団体、仏教系大学の児童研究会等と連絡を取り、情報交換を行い、連携事業の展開に向けて検討を行った。

4) 子ども支援系NPO・公益法人・学会等との情報交換及び活動の連携

チャイルドライン支援センター、オレンジリボン、全国フリースクール協議会、いのちの電話、全国社会福祉協議会、日本仏教教育学会、日本精神衛生学会、日本電話相談学会、日本虐待防止学会など、青少幼年の健全育成や子育て支援について活動を行っているNPO、公益法人、学会等との情報交換を促進し、活動の連携を行った。

② 文部科学省、厚生労働省、他行政機関との子ども・若者の支援のあり方についての協議・連携

1) 文部科学省いじめ防止対策推進室との協議・連携

昨今深刻化している青少年のSNSを通じたいじめの深刻化に関して、文部科学省いじめ防止対策推進室と情報交換を行い、子どもたちの現状を把握するとともに、いじめ防止及び緊急対応に関する施策の推進を依頼した。

2) 厚生労働省自殺対策推進室との協議・連携

子どもや若者をはじめとする若年層の自殺者数が高止まりを続ける中、自死予防活動等に関する協議を厚生労働省自殺対策推進室と行い、今後の施策についての協議と民間活動の支援について依頼を行った。特に SNS を巡るいじめや自殺等に関する対策について議論し、相談体制についてのガイドライン「自殺対策における SNS 相談事業ガイドライン」作成に協力した。

3) 都道府県市町村社会福祉協議会等との協議・連携

岡山市社会福祉協議会、大洲市社会福祉協議会、西予市社会福祉協議会等と被災下における子どもの心のケアのあり方や過疎地域での支援のあり方について協議を行い協働して研修会を開催した。

③ 府県・地区青少年教化協議会及び活動寺院・団体等との活動連携

1) 活動協賛

- ・大阪青少年教化協議会が主催する「ほとけさまの絵コンクール」を後援し、併せて協賛した。
- ※公募期間＝2019年12月～2020年2月
- ※応募総数＝約500点
- ※選考委員＝久保田聖淳氏他
- ※入賞＝最優秀賞他13点
- ※主催＝大阪青少年教化協議会
- ※後援＝大阪市仏教会／全国青少年教化協議会 他

- ・第4回「こころの絵本大賞」の後援
- 公益財団法人仏教伝道協会が主催する「こころの絵本大賞」を後援した。
- ※テーマ＝家族 友だち 勇気 命 思いやり 愛情
- ※主催＝公益財団法人 仏教伝道協会
- ※協賛＝鈴木出版株式会社
- ※後援＝全国青少年教化協議会／毎日新聞社／日本仏教保育協会

2) よみうりランド仏舎利法要開催への協力

協力企業の株式会社よみうりランドが主催して毎年開催されている「仏舎利法要」に対して、役職員等が出し、同聖地公園にて法要を執り行った。

※日時＝2019年9月4日（水）

※会場＝よみうりランド聖地公園（東京都稲城市）

④加盟教団等との活動提携、連携

加盟教団等からの要請に応じて講師を派遣し、講演・ワークショップを行った。又、必要に応じて資料の提供や情報交換を行い、加盟教団等の主催事業に参加・協力した。

1) 「現代教化法研究協議会」（加盟教団教化部門代表者会議）の開催

加盟教団等に広く呼びかけ、これまでの教化活動を振り返りながら現代的課題に即した教化を推進していくべく会議を開催した。各宗派からの教化事例発表を受けて、少子高齢化や寺院の檀家離れ等、諸相のなかで現代に即した教化活動の方法について議論を深めた。

第9回

※日時＝2019年9月26日（木）

※会場＝曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※報告＝曹洞宗

2) 加盟教団・関係諸団体等への講師派遣及び及び協力

加盟教団、関連団体、大学、学会等の要請により研修会・講習会等への講師派遣を行うと共に、主催する会への参加を年度内に合計27回実施した。

(4) 少年法適応年齢引き下げに反対する意見書の提出

①「少年法適応年齢引き下げに反対する」意見書の提出

法制審議会で議論されている少年法適応年齢引き下げについて、日本弁護士会館において他団体と複数回懇

談会を開催し、15団体協働で「少年法適応年齢引き下げに反対する」意見書を作成した。その後、法務省名執雅子矯正局長と面会し、子どもたちの現代における課題について議論を深めるとともに、少年法の適応年齢を引き下げた際に生じる諸問題について報告、山下貴司法務大臣宛に意見書を提出した。

(協働団体：子どもシェルター全国ネットワーク会議、主婦連合会、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、全国地域婦人団体連絡協議会、全司法労働組合、全日本教職員組合、東京都地域婦人団体連盟、日本子どもソーシャルワーク協会、日本子どもを守る会、日本児童青年精神医学会、日本弁護士連合会、被害者と司法を考える会、非行克服支援センター、「非行」と向き合う親たちの会)

②「少年法適応年齢引き下げに反対する」記者会見を開催

※日 時＝2019年6月13日(木)

※会 場＝(東京都千代田区霞が関) 司法記者クラブ

※意 見＝河村真紀子(主婦連合会)・中矢正晴(全司法労働組合)・木村一優(日本児童青年精神医学会)・寺出壽美子(日本子どもソーシャルワーク協会)・神 仁(当会主幹)ほか

(4) 教化活動広報事業

①インターネットによる情報収集及び発信

公式ホームページやブログ、フェイスブック等各種ソーシャルメディアを利用して青少幼年問題や活動者に関する情報を収集し、全青協の活動情報と合わせて情報の発信を行った。

②「Web現代名僧墨蹟展」の運営

伝統仏教各宗派管長、大本山貫首をはじめとする高僧・名僧、又、茶道家元ら文化人より寄せられた書画作品をホームページ上に掲載し、広く一般の人々が心の安らぎや豊かさを感得できるよう試みた。

③『こころの処方箋(仮題)』の刊行準備

ぴっばらに毎号連載された現代人が抱える子育て問題を中心に支援者がどのようにケアに取り組むべきかを提示するブックレットの刊行準備を行なった。

2 公益活動推進事業

(1) てらネットEN関連事業の実施

①不登校・ひきこもり当事者の家族を対象とした親学セミナーの開催

「寺子屋ふぁみりあ～ひきこもり状態にある当事者の家族(親)のためのセミナー～」

全国に100万人いるともいわれるひきこもり当事者。全青協はこれまでひきこもりや不登校の問題に継続的に取り組んできたが、平成22年度からは、ひきこもり当事者の家族(親)に向けてのセミナーを実施している。セミナーでは現場経験が豊富で専門的な知識を有する講師を招いての講義、又、仏教的な体験を通じて精神的な安定が得られるように、読経や法話、慈悲の瞑想などを行っている。そして参加者同士によるグループトークの時間を設け、相互の心情に共感することで各自の孤立感を軽減している。今年度も引き続き、浄土真宗本願寺派僧侶有志の協力を得て、築地本願寺において2019年5月より月1回の頻度で全10回開催した。

※会 場＝築地本願寺東京仏教学院(東京都中央区)

第1回：2019年5月9日(木)

○演 題「コミュニケーションとは? Part 2」

○講 師 神 仁(当会主幹)

- 第2回：2019年6月6日（木）
 ○演 題 「随縁談義」
 ○講 師 浄土真宗本願寺派僧侶
- 第3回：2019年7月4日（木）
 ○ 「随縁談義一重誓偈」
 ○講 師 浄土真宗本願寺派僧侶
- 第4回：2019年9月5日（木）
 ○ 「ひきこもりの問題の原因と対応」
 ○講 師 神 仁（当会主幹）
- 第5回：2019年10月3日（木）
 ○演 題 「依存と自立 Part 3」
 ○講 師 田中 剛（精神保健福祉士）
- 第6回：2019年11月7日（木）
 ○演 題 「「マンダラ塗り絵」ワークショップ」
 ○講 師 飯島 聡子（全青協スタッフ・認定臨床仏教師）
- 第7回：2019年12月5日（木）
 ○演 題 「随縁談義&懇親会」
 ○講 師 浄土真宗本願寺派僧侶
- 第8回：2020年1月9日（木）
 ○演 題 「修正会法要」
 ○講 師 本願寺僧侶有志
- 第9回：2020年2月6日（木）
 ○演 題 「不登校・ひきこもり当事者支援」
 ○講 師 和田 裕子（NPO法人くだかけ会・くだかけ生活舎）
- 第10回：2020年3月5日（木）
 ○演 題 「スピリチュアル・ペインを考える」
 ○講 師 神 仁（当会主幹）

② 「寺子屋ふぁみりあ」のホームページの運営

ひきこもり状態にある当事者の家族向けのセミナー「寺子屋ふぁみりあ」の講演内容等を広く一般に発信し、この問題についての啓発を図るとともに、参加者以外の同じ問題を抱える家族（親）が認識を共有し、問題解決・軽減の一助となることを期してホームページを運営した。

③ 就労支援プログラムの実施

「ご縁つながり隊」の運営

ひきこもりやニートの当事者が社会参加するための足がかりとして就労支援活動を行った。

※日 時＝2019年4月より週1日～2日程度

※会 場＝全青協事務局

※内 容＝機関誌『ぴっぱら』の発送作業等の軽度な作業及びPCを使った事務作業をしながら、当事者が他の当事者や本財団職員と会話を交わすことで、コミュニケーション能力及び作業スキルの向上を目指す。

④相談窓口の設置・運営

- 1) 不登校やひきこもり、自死念慮等、青少年やその家族が抱える悩みに対応すべく、全青協内に電話相談・インターネット相談窓口において、当事者や家族に対してカウンセリングを行った。
- 2) こころの相談室の運営
全青協内に不登校や非行、ひきこもり、精神疾患等の悩みを抱える当事者やその家族を対象とした来所相談室を開設。通常の電話相談では対応できない場合等に随時面接を行った。
- 3) 貧困母子家庭児童および自死遺児支援プログラムに関する調査
子どもを持つ家庭の貧困率上昇や近年の自殺者の増加傾向に伴い、貧困家庭児童及び自死遺児支援プログラムに関して継続的に調査を行った。特に被災地における現状の把握に務め、あおぞら奨学基金をはじめとする支援活動につなげた。又、不登校やひきこもり、自死念慮、児童虐待、DV、発達障害他、青少年や親等が直面する多様な問題に対して仏教情操教育をベースに当事者をサポートする「仏教子ども家庭支援センター（仮称）」の開設に向けて調査を行った。

⑤浄土宗ともいき財団「心といのちの電話相談室」開設事業協力

浄土宗ともいき財団が「心といのちの電話相談室」を開設するにあたり、企画、運営、研修に関して協力をを行った。

※開設日時＝2019年4月1日（月）～（毎週月・金曜日午前10時～午後4時）

※会 場＝東京都港区・明照会館内

※第8期相談員養成講座：

第1回（1月16日）：電話相談と傾聴の基礎

第2回（1月28日）：相談におけるコミュニケーション

第3回（2月12日）：家庭問題（DVなど）

第4回（2月13日）：グリーンケア

第5回（3月3日）：実習とまとめ

⑥てらネットENパンフレット・小冊子の配布

てらネットENでは、ひきこもりの問題について正しい理解がなされて支援の輪が広がり、寺院等においては当事者や家族からの相談に対して適切な対応をするための一助となり得ることを期して、ひきこもりに関する基礎的な知識や対処法等を掲載した小冊子を、加盟教団・青少協・不登校ひきこもり支援団体等の要請に応じて配布した。

(2) 「ぴっばら国際児童基金」の運営

①奨学金の支給

インドのスラムや路上で暮らす子どもたち、山岳部の遊牧民の子どもたち等、経済的な貧困状況のために教育を受けることが出来ない子どもたちをチャイルド・サポーター（里親）及び会員等からの支援金を基にして奨学金を支給した。2019年度はインド国内40名の子どもたちに奨学金を供与した。

②無料小学校の運営

学用品・教職員の給与等をはじめ、貧困層の子どもたちを対象とした無料小学校の運営に必要な運営費全般について支援を行った。

③無料診療所の運営

貧困家庭母子等を対象としたホメオパシー（免疫療法）を中心とした無料診療所を運営し、医薬品の提供および栄養補給等の支援プログラムを推進した。

④貧困家庭の母親を対象とした就労支援

貧困家庭の母親を対象に、職に就くための語学学習、編み物やクラフト製作等の就労支援を行った。（公益社団法人全日本仏教婦人連盟との協働事業）

3 臨床仏教研究所運営事業

(1) 臨床仏教師養成プログラム

—仏教師は現代社会のなかで人びとのこころにどのように寄り添うことができるのか—

平成25年度から現代社会の生老病死にまつわるさまざまな苦悩と向き合い、専門的な知識や実践経験をもとに行動する臨床仏教師を養成するプログラム《座学（公開講座）⇒ワークショップ⇒実践研修（OJT）》を実施している。

①第4期 臨床仏教師養成プログラム

1) OJT（臨床実習）課程（On the Job Training、半年の期間内に100時間以上の実践研修）

臨床仏教師養成プログラムの座学（公開講座）・ワークショップ課程を2018年度に修了し、審査を経た受講者が2019年4月より6カ月の期間内に100時間以上の臨床実習を行った。

2) 第4期臨床仏教師認定

2020年2月13日（木）に最終審査を実施し、第4期臨床仏教師3名の認定者が決定した。

3) 第4期臨床仏教師認定式並びに記念講演会の開催

2020年2月に認定された3名の臨床仏教師の認定式ならびに第1期臨床仏教師の更新認定式を開催。

（2019年度第2回臨床仏教研究所公開研究会と同時開催・新型コロナウイルスの影響による規模縮小の為、基調発題は中止）

※日 時＝2020年3月26日（木）

※会 場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※認定者：岩田俊靖（孝道教団）・野田芳樹（臨済宗妙心寺派）・松山正樹（臨済宗妙心寺派）

※更新者：伊藤竜信（浄土宗）・楠恭信（曹洞宗）

飯島聡子（浄土宗・レジデント）・大草敏憲（浄土真宗東本願寺派・特任臨床仏教師）

※基調発題＝石川 到覚氏（大正大学名誉教授）

※演 題＝「仏教と福祉の今日的実践」

②第5期臨床仏教師養成プログラム

1) ワークショップ課程開催

座学（公開講座）で学んだ生老病死の「今」を踏まえたうえで、現場において相手のこころに深く寄り添い、又、自分自身が燃え尽きてしまうことのないようにケアのあり方を理解し、活動のベースとなる技法を基礎から体系的に学ぶワークショップを、2019年5月より原則隔週にて全10回の連続講座を開催した。

※会場＝仏教伝道センタービル（東京都港区）

第1講：2019年5月8日（水）

○演題 「仏教カウンセリング・傾聴法」

○講師 神 仁（臨床仏教研究所上席研究員・東京慈恵会医科大学講師）

第2講：2019年5月22日（水）

○演題 「グリーフケア」

○講師 大河内 大博（臨床仏教研究所特任研究員）

第3講：2019年6月5日（水）

○演題 「内観法」

○講師 千石 真理（臨床仏教研究所特任研究員）

第4講：2019年6月19日（水）

○演題 「いのちのケア&スピリチュアルケアー方法論と実践」

○講師 窪寺 俊之（聖学院大学大学院客員教授・臨仏研アドバイザー）

第5講：2019年7月10日（水）

○演題 「生と死のプロセスワーク・マインドフルネス瞑想」

○講師 神 仁（臨床仏教研究所上席研究員・東京慈恵会医科大学講師）

第6講：2019年7月24日（水）

○演題 「インターフェイス・チャプレンシー」

○講師 高木 慶子（上智大学グリーフケア研究所特任所長・臨仏研アドバイザー）

第7講：2019年8月28日（水）

○演題 「ターミナルケア」

○講師 千石 真理（臨床仏教研究所特任研究員）

第8講：2019年9月11日（水）

○演題 「苦集滅道（四諦）ワークショップ」

○講師 ジョナサン・ワッツ（臨床仏教研究所研究員）

第9講：2019年9月25日（水）

○演題 「コミュニケーション・トレーニング&ロールプレイング①」

○講師 吉水 岳彦（臨床仏教研究所研究員）

第10講：2019年10月9日（水）

○演題 「トラウマケア&ロールプレイング②」

○講師 神 仁（臨床仏教研究所上席研究員・東京慈恵会医科大学講師）

※以上、敬称略

※参加者数＝27名

③関西第2期（通算第6期）臨床仏教師養成プログラム

1) 座学（臨床仏教公開講座）開催

「自死防止」「ターミナルケア」「青少年の問題行動・ひきこもり」「過疎化・孤立化」「災害と仏教」等、現代社会における臨床的テーマを取り上げ、10月より原則隔週にて全10回の連続公開講座を開催した。

※会場＝キャンパスプラザ京都（京都府京都市）

※花園大学・アジア南太平洋友好協会寄附講座

第1講：2019年10月1日（火）

○演題 「子どもたちとカウンセリングー第三者介入と支援のあり方ー」

- 講師 丹治 光浩 (花園大学学長)
- 第2講：2019年10月15日 (火)
- 演題 「米国の仏教チャプレンシー ―専門職種としての活動―」
- 講師 千石 真理 (心身めざめ内観センター主宰・臨床仏教研究所特任研究員)
- 第3講：2019年11月5日 (火)
- 演題 「釈尊の救いと方便 ―対機説法の力―」
- 講師 佐々木 閑 (花園大学教授)
- 第4講：2019年11月19日 (火)
- 演題 「台湾における臨床仏教 ―死の質を問う―」
- 講師 吉水 岳彦 (淑徳大学非常勤講師・臨床仏教研究所研究員)
- 第5講：2019年12月3日 (火)
- 演題 「支援を必要とする母と子 ―大念仏寺社会事業団の取り組み―」
- 講師 野崎 裕子 (大念仏寺社会事業団施設長)
- 第6講：2019年12月17日 (火)
- 演題 「地域社会における看取りのあり方 ―つながり社会を回復するために―」
- 講師 大河内 大博 (医療法人社団日翔会チャプレン・臨床仏教研究所特任研究員)
- 第7講：2020年1月14日 (火)
- 演題 「インターフェイスチャプレンシー ―東日本大震災の被災地での実践―」
- 講師 高木 慶子 (上智大学グリーンケア研究所特任所長)
- 第8講：2020年1月28日 (火)
- 演題 「日本人の死生観といのちのケア ―のぞまれるケアのあり方とは―」
- 講師 カール・ベッカー (京都大学政策のための科学特任教授・花園大学客員教授)
- 第9講：2020年2月4日 (火)
- 演題 「子ども会活動の役割 ―仏性を育み寄り添うこと―」
- 講師 中村 勝胤 (五位堂安養日曜学校代表・寶樹寺住職)
- 第10講：2020年2月18日 (火)
- 演題 「いのちのケアの実践 ―現代社会における臨床仏教師の使命―」
- 講師 神 仁 (臨床仏教研究所上席研究員・東京慈恵会附属医科大学SCW)

※参加者数＝71名

(2) 臨床仏教師フォローアップ研修の開催

日々の臨床活動を振り返り、自身を省察することで自己の信仰の有り様を深め、ケア対象者への専門的関わりの妥当性を判断する力、バーンアウトしないためのセルフケアを継続して行う力を養った。

第1回：2019年10月16日 (水) ※台風の影響により中止

※会 場＝京都府京都市・芝蘭会館別館

※講 師＝窪寺 俊之氏 (聖学院大学大学院客員教授・臨仏研アドヴァイザー)

神 仁 (臨床仏教研究所上席研究員)

第2回：2020年1月21日 (火)

※会 場＝東京都港区・仏教伝道センタービル

※講 師＝神 仁 (臨床仏教研究所上席研究員)

吉水 岳彦 (臨床仏教研究所研究員)

(3) 2019年度臨床仏教研究所公開研究会の開催

国内外の教育・福祉・医療等の臨床現場において活動をしている臨床仏教師の活動内容と事例、課題について知り、今後の日本における臨床仏教のあり方について議論を深め情報を共有した。

①第1回 ※台風の影響により中止

※日 時=2019年10月15日(火)

※会 場=京都府京都市・キャンパスプラザ京都

※主 催=全国青少年教化協議会・臨床仏教研究所

※内 容=教育講演・臨床仏教師活動発表・指定討論 等

※教育講演=千石 真理(臨床仏教研究所特任研究員・心身めざまし内観センター主宰)

※発題=伊藤 竜信・星 光照(臨床仏教師2名)

※指定討論者=神 仁(臨床仏教研究所上席研究員)・千石 真理

※参加申込者数=31名

②第2回

※日 時=2020年3月26日(木)

※会 場=東京都港区・曹洞宗檀信徒会館(東京グランドホテル)

※主 催=全国青少年教化協議会・臨床仏教研究所

※内 容=臨床仏教師活動発表・指定討論 等

※発題=内山 美由紀・飯島 聡子・伊藤 竜信・楠 恭信(臨床仏教師4名)

※指定討論者=神 仁(臨床仏教研究所上席研究員)・吉水 岳彦(臨床仏教研究所研究員)

※参加者数=32名

(4) 臨床仏教師(仏教チャプレン)資格認定制度に関する調査

今年度も引き続き、教育・福祉・医療等の臨床現場において、仏教精神に基づいた心理的・精神的ケアを行うことのできる臨床仏教師の資格認定制度運営に関する国内外での調査・準備を進めた。主要な病院等を訪問し、情報交換するとともに、臨床仏教師の活動の場を開拓することに努めた。

(5) 上智大学・慈恵医大ジョイントシンポジウムへの協力

12回目となる上智大学及び東京慈恵会医科大学主催のジョイントシンポジウム「医療におけるスピリチュアルケアの現状」の開催に対して企画及び運営実施に対して協力をを行った。

※日 時=2019年12月4日(水)

※会 場=東京都港区・東京慈恵会医科大学1号館講堂

※発 題=伊藤高章(上智大学教授)・西山悦子(上智大学教授)・中村敬(慈恵医大第三病院院長)・神 仁(臨床仏教研究所上席研究員)・内山 美由紀(臨床仏教師)

※参加者数=約380名(オンライン聴講含む)

(6) 講師派遣

教団や団体等の要請に応じて、臨床をテーマとした講座及びワークショップの開催に際して、研究所スタッフを講師として派遣した。

(7) 「いのちのカフェ」の開催

がん患者・ご家族・ご遺族・医療スタッフを対象に、生と死にまつわる苦しみを見つめ分かち合うためのオープンカフェを開催した。

※日 時＝2019年4月より原則第1・第3週金曜日16:00～18:00

※会 場＝東京慈恵会医科大学附属病院本院腫瘍センターサロン（東京都港区）

(8) 臨床仏教研究所 公式ホームページ等による情報発信

臨床仏教研究所のホームページ、ブログ・フェイスブック等各種ソーシャルメディアと連動して講座内容、調査報告、プログラム運営等に関して情報の発信を行った。

4 出版事業

(1) 機関誌『ぴっばら』の発行状況

① 月別発行部数

月	部数	月	部数	月	部数	月	部数	月	部数	月	部数	平均発行部数
5-6	5,000	7-8	8,700	9-10	5,600	11-12	5,200	1-2	5,800	3-4	6,100	

② 『ぴっばら』「特集」テーマ一覧

月	テ ー マ
5-6	子どもの「虐待死ゼロ」をめざして —— 児童相談所の現状と課題とは
7-8	「中高年のひきこもり」を考える —— 「絶望」を生み出さないために
9-10	シングルマザーと「貧困」 —— 誰にとっても生きやすい社会とは
11-12	子どものいのちと看護 —— 成長する力を信じて
1-2	子どもの食育と仏教 —— <いのち>を生かすということ
3-4	子どもたちに豊かな環境を！ —— 地球温暖化をどう止めるか

(2) 書籍・教材発行と調査及び研究、広報

青少幼年向けの各種教材を発行。花まつり用ぬりえ、シール、風船、ポスター及び甘茶クッキー等を頒布した。

①教材等の製作

A) 甘茶クッキー

甘茶クッキーを「おかし屋ぱれっと」（障がい者の自立支援を行うNPO法人）と共同開発し頒布した。

②書籍・教材の調査及び研究

今後の出版事業につないでいくために、青少年関係の出版物並びに教材等を調査・研究した。

③出版物・教材の広報活動

出版物は会員以外への販路を開拓するべく、頒布活動に力を入れ、教材は成道会、お盆、花まつりをはじめとして、あらゆる機会を利用して、DM、チラシ等で広報した。

II 表彰事業（公益目的事業2）

青少幼年の健全育成に尽力し、社会の情操教育振興に功績のあった個人及び団体を表彰する事業

(1) 『正力松太郎賞』の実施

仏教精神に基づき、長年にわたって青少幼年の宗教情操の育成に尽力して顕著な実績をあげ、今後も活躍が期待される個人・団体を表彰した。

① 「第43回正力松太郎賞」の表彰

※受賞者

(本賞)

○徳応寺日曜学校

[浄土真宗本願寺派徳応寺住職・戸崎 文昭氏/山口県下関市]

○藤 大慶

[浄土真宗本願寺派西福寺前住職/京都府綾部市]

(奨励賞)

該当者なし

※後援=読売新聞社、日本テレビ放送網株式会社、株式会社よみうりランド

※表彰式=2019年5月30日(木)

※会場=東京都港区・曹洞宗檀信徒会館(東京グランドホテル)

② 「第44回正力松太郎賞」の公募と受賞者の決定

2019年9月公募開始、同年12月15日締め切り

※選考会日時=2020年5月25日午後3時4分(水)

※選考会場=東京都港区・曹洞宗檀信徒会館(東京グランドホテル)

※受賞者

(本賞)

○平野 仁司

[浄土宗宗仲寺前住職・学校法人座間学園理事長/神奈川県座間市]

○一般社団法人 仏教情報センター

[理事長=浄土宗戒法寺住職・長谷川 岱潤 氏]

(奨励賞)

○古仲 宗雲

[曹洞宗雲昌寺副住職/秋田県男鹿市]

※後援=読売新聞社、日本テレビ放送網株式会社、株式会社よみうりランド

※表彰式=※新型コロナウイルスの影響により2020年秋に延期

※会場=東京都港区・曹洞宗檀信徒会館(東京グランドホテル)

(2) 優秀表彰の実施

情操教育を目的とした書道・絵画等を通じ優秀な成績をおさめた児童・生徒への表彰、又、青少幼年の健全育

成に貢献した個人及び団体を表彰した。

- ・曹洞宗主催「第53回青少年書道展」を後援、全青協賞を授与。
- ・大正大学書道研究部主催「第68回全国書道展」を後援、全青協賞を授与。
- ・炎天寺一茶まつり委員会主催「2019年度全国小中学生俳句大会」を後援、全青協賞を授与。

Ⅲ 災害支援事業（公益目的事業3）

国内外の自然災害に際する緊急支援及び復興支援を行う事業

（1）東日本大震災復興支援事業

石巻被災地支援センター等を拠点として、被災地の方々、特に子どもたちや高齢者の方々のニーズに応えるべく、精神的なケアにつながる支援を主とした活動を行った。

①孤独死・自死を防止するためのこころのケアを行う人員の派遣

こころのケアについて講習を受けたボランティアスタッフを組織し、定期的に復興支援住宅等において茶話会及び歳時に対応したイベントを開催した。

②「あおぞら奨学基金」の運営

2012年度に一般財団法人杉浦ブラムチャリヤ、公益社団法人全日本仏教婦人連盟と協働して「あおぞら奨学基金」を設立。東日本大震災で公的な支援の狭間にあつて就学困難な状況にある高校生のための給付型奨学金支給事業を基金事務局として運営を行った。今年度は宮城県・岩手県・福島県の公立高校を中心に287名に月々1万円の奨学金を給付し、それぞれの生徒が継続的かつ安定した就学環境を得ることに努めた。卒業生に対してはあおぞら奨学生卒業証書を授与した。

（2）国内外緊急支援事業

2018年7月に発生した西日本における豪雨被害等における被災者支援及び2019年9月に発生した台風15号・10月に発生した台風19号により被災したの方々、特に被災児童や高齢者を中心に物心両面での支援活動を行った。

① 仮設住宅等を巡るの巡回ハーブティーサロンの開催

被災地の仮設住宅、寺院、高齢者施設において週1回程度、西洋の漢方薬とも言えるハーブティー等を提供しながら、被災者の方々のこころのケアに当たった。実施にあたっては、曹洞宗青年会、真言宗御室派青年会等の協力を得た。

② 台風15号・19号被害に際する緊急支援

被災地の会員寺院や社会福祉協議会等と協働して、被災者の物的・心的支援に当たった。また、被災地の幼稚園及び保育園に対して絵本等を寄贈した。

Ⅳ 管理

（1）組織の充実・拡充

理事会及び評議員会、青少協代表者会議の席上、会員拡充への協力を依頼した。又、各宗派の研修会等において全青協の資料を配布し入会案内を行った。会員数は令和2年3月末日現在、739名。内訳は「会員」265名、「活動会員」249名、「賛助会員」196名、「特別賛助会員」26名。※団体含む

2019年度事業報告附属明細書

2019年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2020年3月

公益財団法人 全国青少年教化協議会